

くほんキャンパス
学校法人文京学院
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部・文京学院
大学生活センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

くふじみ野キャンパス
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
/文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市龜久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
く駒込キャンパス
文京学院大学女子高等学校・文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301



渡部ゼミ生・棚橋ゼミ生 「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」で「TOP50」入賞!



渡部ゼミ(左から)
道心さん、武石さん、菊地さん



棚橋ゼミ(左から)原島さん、
棚橋教授、小林さん

「第7回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(主催=神田外語グループ・読売新聞社)が昨年12月1日、神田外語学院で行われ、本学外国语学部の渡部吉昭ゼミナールと、棚橋サンドラゼミナールの3年生がテーマ「地球を守れ! 環境教育の新しいプログラムを提案」に臨み、エントリー数759名の内「TOP50」に入賞しました。両チームの喜びの声を伝えます。

渡部ゼミナール

渡部ゼミ生の入賞は、昨年に引き続き2回目。今回は、武石彩夏さん(チームリーダー)、道心珠季さん、菊地菜々子さんのチームが入賞しました。

武石 「環境関係の団体や企業にインタビューを行うことで問題点を見つけ、現在の環境課題について理解しました。小学校で『水の循環サイクル』についての授業をゲーム形式で行ったところ、子どもたちが興味をもって臨んでくれました。私たちには『TOP5』をねらっていたので、悔しい気持ちもありました。後輩には、体験・反省をまとめたノートを託します」

渡部 「前回の新井友一郎チームと、今回の武石チームの共通点は、夏休み返上でプレゼンに備えたことと、アドバイスをきちんと聞いて対応したこと。努力は裏切らないことを証明しました」

棚橋ゼミナール

棚橋ゼミからは、原島優奈さんと小林霞さんのチームが、先輩たちが2013年に「TOP50」に入賞以来、2度目の入賞を果たしました。

原島 「何を視点とした環境教育のプログラムを組むかで議論を交わし、タイトルを『木を植えてCO₂を減らそう』に決めました。経験のための出場で『TOP50』に入ることは夢にも思わず、大変驚きましたが、大きな自信に繋がりました」

小林 「プログラムを子どもたちにどのように伝えるか、子どもたちがそれを将来持続できるかが視点の1つでした。2人でスケジュールを調整して、分担制で準備しました。緊張の中で発表し、結果が出て、これから何でもできると思いました」

棚橋 「2人は本気でこのコンテストに一生懸命に取り組みましたので、大変誇りに思います。私の友人の英語学校でもプレゼンを披露して絶賛されました。本当に良くやったと思いました」



國分 豊 高3学年代表
心優しい生徒ばかりでした。

文京学院



締結式に臨んだ森田知事(左)と工藤学長

千葉県では、県内企業の
人手不足が深刻化しており、
若者の地元就職による労働
力確保が重要な課題とな
っています。毎年、県内の大
学進学者の半数近くが都内
を目的として3月6日、千葉県と「就職支援に関する協定」を締結しました。

本学は、学生への就職活動支援と、千葉県へのU-I-Jターンや地元就職の促進を目的として3月6日、千葉県と「就職支援に関する協定」を締結しました。

本学では、本協定を通じて学生・卒業生たちへの企業・求人情報の提供やインターンシップの支援を強化していくとともに、千葉県における地元就職定着・促進に貢献していくことを、歓待していきます。

千葉県から本学への通学者は、在学生の約10%を占めています。東京以外での就職を視野に入れ、卒業生たちもおり、2018年3月の卒業生では50名が千葉県内企業への就職を決定。今回協定を結んだ12校全体では、

新卒として就職を迎える在学生はもちろんのこと、転職を考える卒業生に対しても広く提供し、本学が目標とする「いつまでも卒業生たちのホームであり続ける『永久サポート大学』としての役割を果たしていく

印度ネシアで開催された「Association of Language Teachers in Southeast Asia (ALTESA) / 東南アジア言語教育者学会」に、外語学部の椿まゆみ教授が昨年に引き続き招請され、「デジタル時代の英語語彙指導・語彙リストの活用と作成」について発表しました。

英語教育を専門とする椿教授の同学会への招請は、ウラジオストク(ロシア)で開かれた「アジア英語教育学会」でインドネシアのメダン州立大学の教授と交流したことがきっかけです。椿教授は、次のように想いました。英語を教室であまり使わない印度ネシアと日本の英語学習の環境は大変似ていると思



招聘講演者と学会関係者(前列右から2人目が椿教授)

Green Spirits.

「卒業生に贈る言葉」

平成31年3月8日、第71回卒業式が行われ、高

校3年生265名に無事卒業証書を手渡せたことを、

記

め、この年は「思いやり」「挨拶」「笑顔」という3つの言葉を心がけるよう入学当初よりあるたびにお話しまいりました。この3年間けつして平坦な道のりではありませんでしたが、みんな心優しい生徒ばかりでした。

今回私は、初めて卒業式の壇上で証書を渡す介添をさせていただきました。授与の際の「ありがとうございます」との言葉と笑顔、合唱「遙か」の綺麗な歌声が、とても印象的で、今も耳に残っています。



今泉誠介 中3学年代表

業生諸君、文京学院での思い出申しが行こう。最後と同じ『い』

方々に、この場をお借りしてあらためて感謝申上げます。

警備・カフェティリアの皆さま、関係した全ての

保護者の皆さま、校内整美事務所の皆さま、校内警備・カーフェティリアの皆さま、関係した全ての

の先生方ははじめ担任・教科

担当の先生方はもちろん、事務所の皆さま、校内警備・カーフェティリアの皆さま、関係した全ての

が決めたこと。家を買ったこと。最近では実

と。どれもこじらせていたことです。ですが、その時その時でどつて悩みました。

います。学会に参加し、印度ネシアの研究者や幼稚園から大学までの英語教育者とのコミュニケーションを取り、それぞの教育現場や印度ネシア全体の英語教育を改良しようと熱い気持ち、バイタリ

たことや、歓待してくださることへのお礼に代えて、私の専門が少しでも皆さんに貢献できるとうれしいです

ています。学年で、それぞれの教員がおなじみを出します。私はこんな答えを出します。自分のことは自分で決めています。人生どんなうに過りますかは、本人の選択だと思います。人生どんなうに過ごすかは、本人の選択だと思います。いわば「人生の選択」の初心者となるのが高校の時だと思います。人生どんなうに過ごすかは、本人の選択だと思います。私が高校で初めて「人生の選択」をしたのは、大学の選択でした。大学を決めたことで、大学に進学してからは、職業を決めたこと。就職したこと。就職してからは、結婚

ます。そこで最も頼りになればなはず、そこで最も頼りになりました。

中学生と高校生の違いはあります。そこで最終的に理解教育について改めて考える機会をください

ます。これまでの教員と、私はこんな答えを出します。自分のことは自分で決めています。人生どんなうに過ごすかは、本人の選択だと思います。いわば「人生の選択」の初心者となるのが高校の時だと思います。人生どんなうに過ごすかは、本人の選択だと思います。私が高校で初めて「人生の選択」をしたのは、大学の選択でした。大学を決めたことで、大学に進学してからは、職業を決めたこと。就職したこと。就職してからは、結婚



中學・高校の小石富士子教諭（家庭科）が2月12日、永眠されました（享年64歳）。駒込キャンパス2階職員室前には、同教諭の思い出の品が置かれました。祭壇が設けられ、生徒や卒業生が遺影に手を合わせています。

葬儀では、教職員一同の想いを代表して、清水直樹高等部校長が、次の弔辭を小石教諭に贈りました。

追悼文

厳しく、厳しくもやさしく、あせらず粘り強く生徒たちの成長を我慢強く待ち続けているらっしゃる方でした。まさに「富士子流」の教育で、多くの生徒たちが成長しました。そんな先生の教え子たちは、今も社会で、家庭でがんばっています。

一昨年の夏に小石富士子先生は、ご自身の病気のこと、そして今後の治療に関することを伝えてくださいました。

「しばらくお休みをいたしました。だがことになるので、生徒たちや先生方に迷惑をかけてしまい本当に申し訳ない」と、ご自身のとてもらい状況にも関わらず、生徒たちのこと私たち同僚のことを見配しておられました。それから何度か学校へ顔を見せにきてくださいました。お身体もつらかったろうと思いますが、いつも笑顔でした。昨年の秋に学校にいらつしまった時が先生とのお別れでした。さくらんぼの収穫を伝えていた最後の

文京学院大学
高等部校長 清水直樹

1年生の永遠の高校生はなにか...
と...

文部科学省からSGH（スーパークリエイティブスクール）アソシエイトの指定を受けている本校では、国際教養コースの高1楓・檜・桜・藤組の全生徒が、SDGs（持続可能な開発目標）を共通の研究テーマにし、探究活動を行ってきました。活動のまとめとして3月7日、駒込キャンパスBALスタジオで「研究成果発表会」を行いました。



高1国際教養コースが「研究成果発表会」実施 SGHアソシエイト

島田昌和理事長から表彰状を授与されました。司会・進行＝大澤千絵、小野美音★控室・誘導＝飯島歩季、坪谷朱莉、野口遥加、松本有咲美



表会が3月5日、仁愛宗

第29回「創作ダンス発表会」が、体育の授業でつくり上げた作品に磨きをかけて競い合いました。島田昌和理事長、竹内秀和法人事務長、中学1年2年生、保護者、教員らが見守る中、各チームともパワフルなダンスを披露し、審査の結果、次の会場を魅了しました。金教員による審査の結果、次のチームが入賞し、水上茂中学生が優秀賞、「静電気」（菊）を受賞されました。また、高1楓・檜・梅組の選抜メンバーと、新体操部が卓越したダンスで会場を沸かせました。最後に、沢柳優子教諭（体育科）から発表会を支えた次の栗組スタッフが紹介され、一同元気よく登壇。会場から大きな声援と拍手が贈られました。

【努力賞】▼「私たちだって…強くなりたい」（栗）
▼「TRAINING」（桃）

また、贊助出演として、

中学「創作ダンス発表会」パワフルに



高1国際教養コースが「研究成果発表会」実施 SGHアソシエイト

経営学部でコンテンツプロデュース論を専門に研究しているコンテンツ実務研究ゼミナール（担当教員：公野勉教授）の学生20名が、6年の歳月をかけて制作した映画『蒼穹』が、今年、遂に完成しました。

同作品は3月3日、「第4回文京映画祭」（主催＝同实行委員会）でのオープニング上映を飾りました。今回の製作にあたって公野教授が構想を練り、脚本を吉川大志氏に依頼。同ゼミの学生たちが製作全般を担当しました。圧倒的な編集技術や、「父子の意味を問う」テーマが評価され、今回上映に繋がりました。

大学

文京映画祭オープニングで『蒼穹』上映



学生デザインによる『蒼穹』ポスター



映画製作メンバー（前列左が玉川さん）

著書コーナー

★『対人援助のためのコミュニケーション学～実践を通じた学際的アプローチ～』

編者：伊藤英夫（文京学院大学総合研究所所長）、工藤秀機（文京学院大学学長）、石田行知（文京学院大学前総合研究所所長）／文京学院大学総合研究所（2019年3月15日）／2,500円＋税

本書では、子どもへの支援、障害のある人への支援、医療現場での支援、高齢者支援、社会的マイノリティへの支援、災害支援において、それぞれの現場で活躍する本学教員18名が専門家として「対人援助に必要なコミュニケーション」の意味と技法について執筆しています。



実際に映画祭で上映する準備を担いました。音に関してもプロデューサーとして活躍した玉川昭隆さんは、同ゼミで学び、現在は大学院経営学研究科でコンテンツ・マネジメントを学んでいます。学生時代から同作品に携わってきた想いを次のように語りました。「撮影と素材を作るところまで」とがとても有意義でした。粗い素材をクリアにすることができました。

僕は『瞬間少女』『維新烈風天狗判官』など実際に上映された映画製作に携わっていましたため、そこで学んだ知識や技術が、今回もクールにして、映画館での上映に結び付けられればと考えています。夢は、大変役立つだけではなく、新たな技術を獲得できたことが大変でした。

僕は『瞬間少女』『維新烈風天狗判官』など実際に上映された映画製作に携わっていましたため、そこで学んだ知識や技術が、今回もクールにして、映画館での上映に結び付けられればと考えています。夢は、大変役立つだけではなく、新たな技術を獲得できたことが大変でした。